

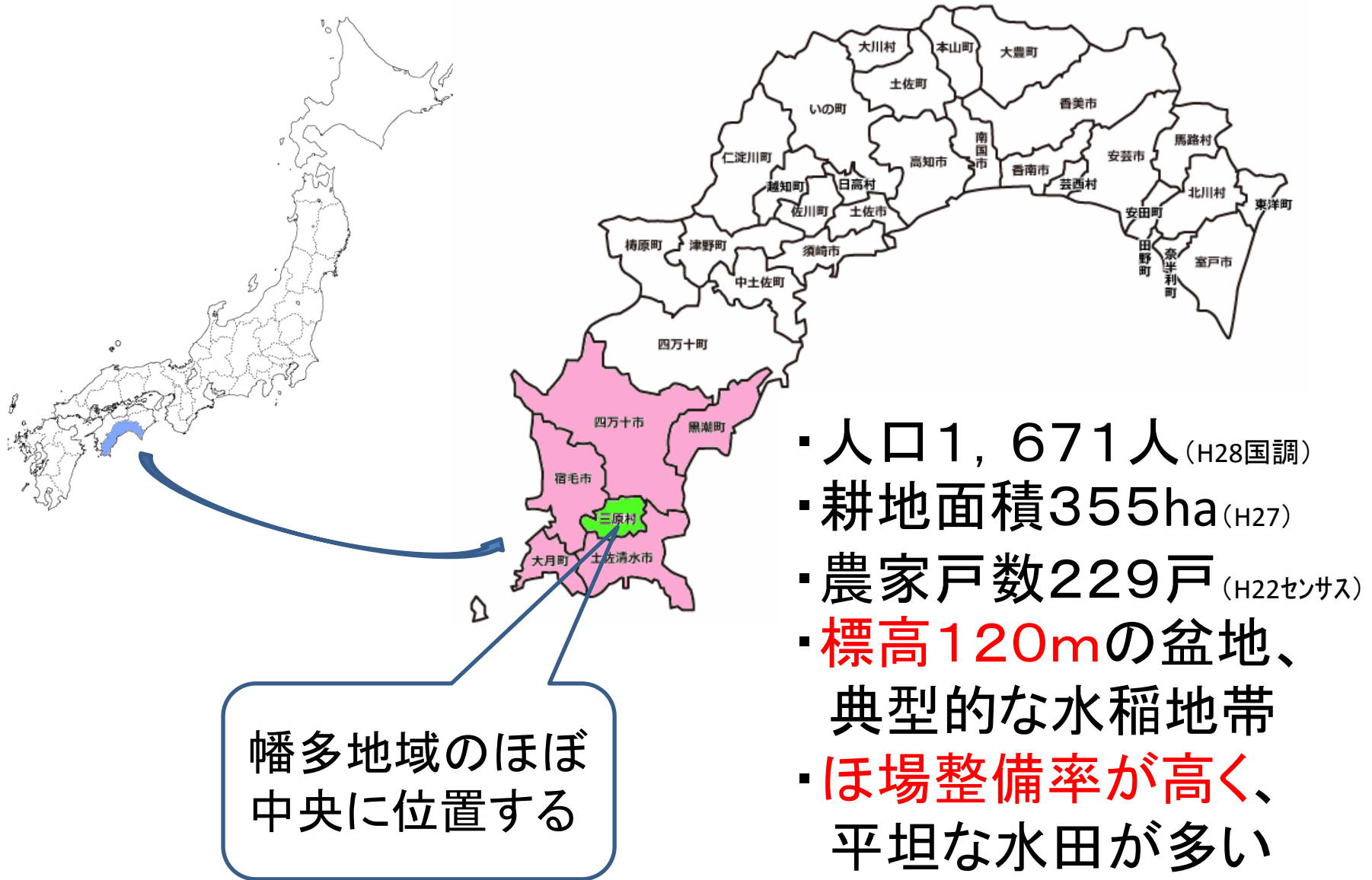
農業公社を核とした三原村におけるユズ産地の定着・拡大

～「小さな村の挑戦」を支え続けてきた普及活動～

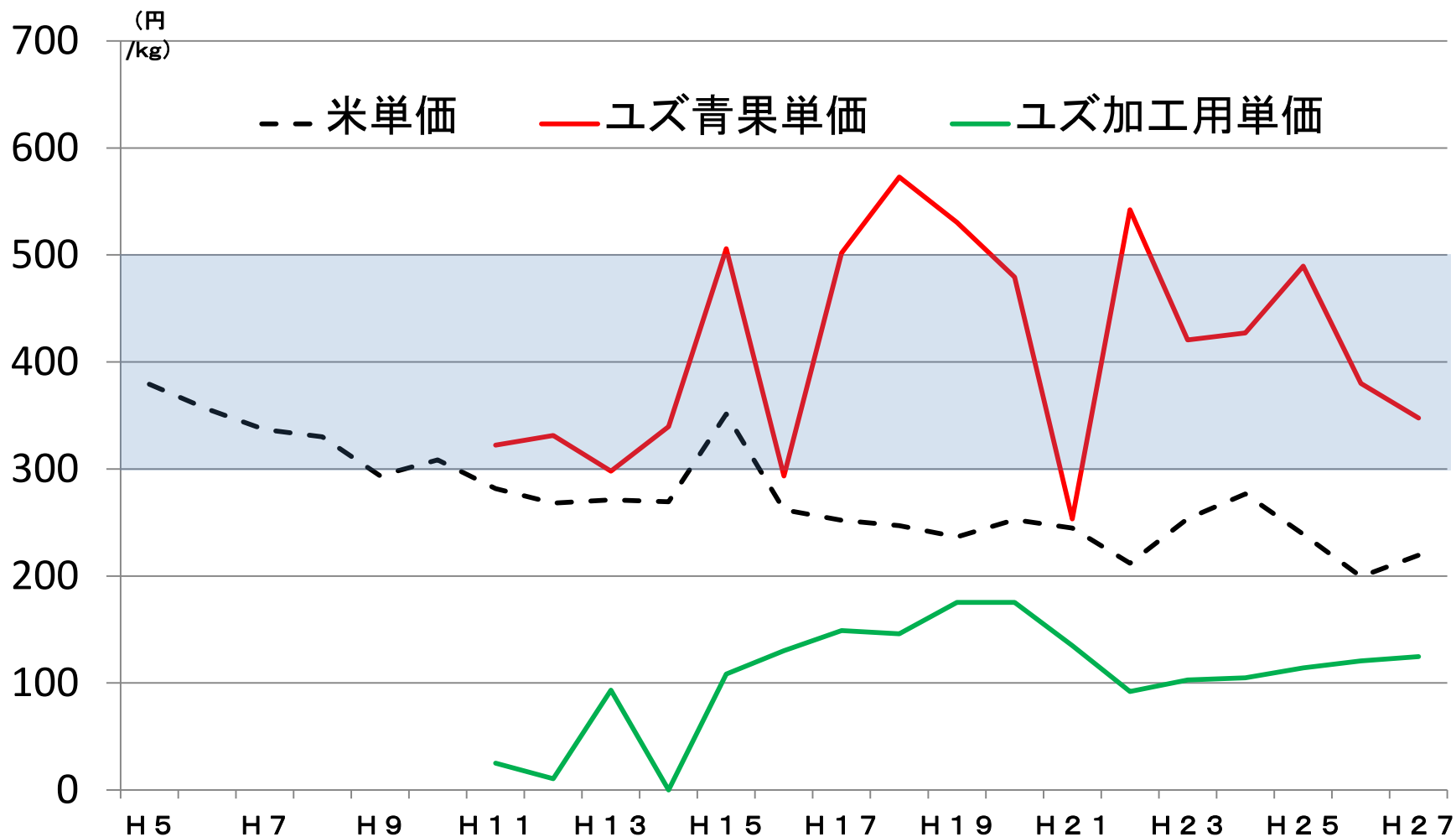


高知県幡多農業振興センター農業改良普及課
普及指導員 山西敏治

三原村の概要



米単価とユズ単価の推移



注) 米単価: 自主流通米の価格の推移・・・全国米穀取引・価格形成センター公表資料より
ユズ単価: JA高知はた三原支所販売実績より

課題設定に至る背景1

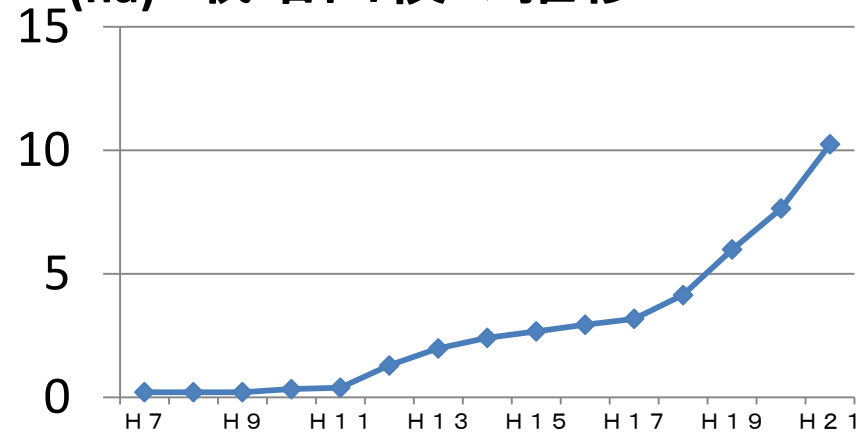
年度	産地の状況
H5	URで米価下落が想定される
H7	水田へのユズ作付開始
H11	ユズで所得確保できる農家が現れる
H13	村が水田へのユズ新植に苗木代半額補助を始める
H18	産地の拡大遅々として進まず
H19	関係機関において、村の農業の将来に対する危機感が共有される 関係機関の協議によりユズを振興品目として設定

普及指導活動(水田でのユズ栽培提案・面積拡大)

普及指導活動(個別現地技術指導)

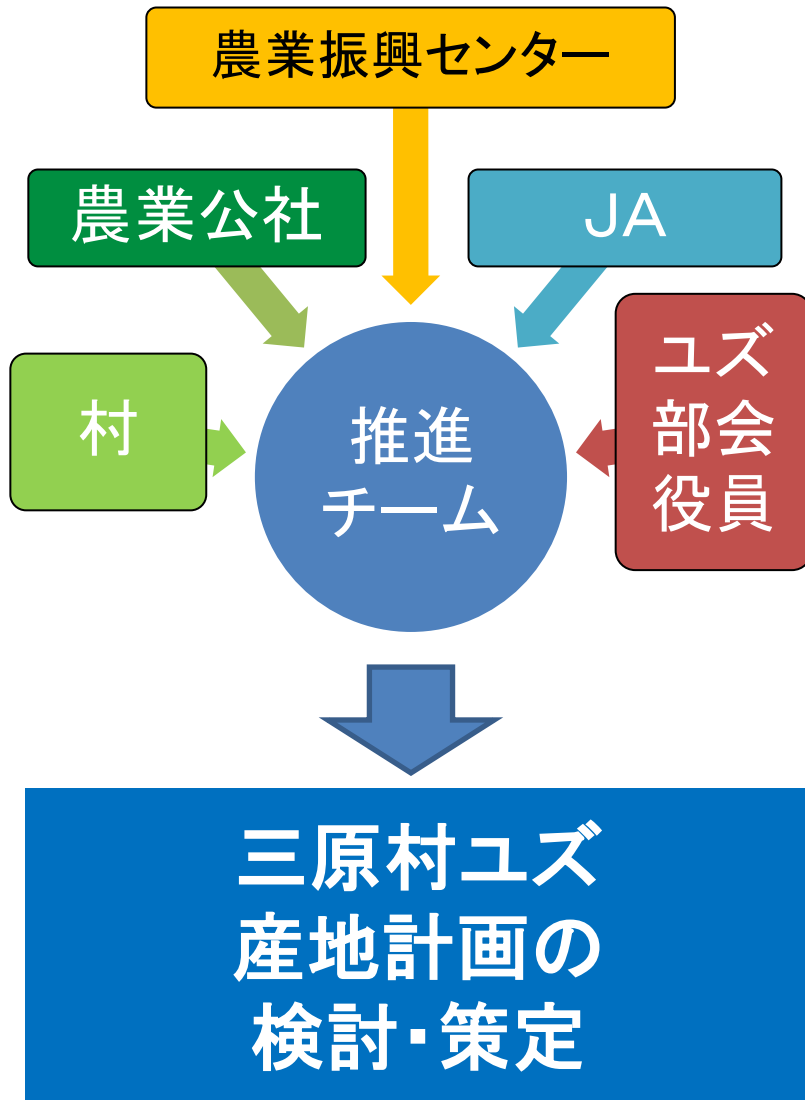
村の支援(苗木代半額補助)

(ha) 栽培面積の推移



定植3年目の生育状況

課題設定に至る背景2(H20～21)



普及指導活動

- 徹底した実態把握
 - SWOT分析による将来性の確認
 - 経営試算の提示
- 全世帯に参加意識を持ってもらう
 - 全世帯意向調査によりユズ新植への意向を把握
- 目標の明確化

推進チームでの検討

村はユズの産地化を支援する

ユズ部会は産地強化に期待する

三原でユズの産地化を進めて行こう

公社がユズ栽培を行うためには行政の支援が必要

課題も多い

- ・かいよう性こはん様症
- ・優良苗確保
- ・品質

JA高知はたとしてユズでの農業振興を検討する

JA高知はた三原支所としては将来共選を！



実態把握と将来性の分析

SWOT分析の結果

強み - 気象条件がユズ栽培に向いている。 - 既存の産地に比べ、平坦で基盤整備された農地が多く、水田への新植で高齢者でも栽培が可能。 - 道路状況が良く、輸送時の荷痛みのリスクが少ない。 - 水稻に比べ、単位面積あたりの所得が高い。また、減価償却費や燃料費が安い。 - 村が苗木の半額補助事業を実施。	弱み - 高齢化・後継者不足 - 技術不足 - 不良な苗木(トリステザウィルス保毒苗など)の混在
機会 - 県内の競合産地は、高齢化及び傾斜地での作業の困難性により青果率が下落傾向にある。(三原村でユズ青果を増産しても単価下落につながる危険性が低い) - 既存産地におけるユズ幹腐病の蔓延 - ユズ製品の需要が伸びて、継続的な需要が見込まれる。	脅威 - 県外等競合産地の増加 - 韓国産ユズの動向 - 加工原料ユズの増加

経営試算

三原村のユズ産地化計画における経営試算一覧表

<10aあたりの所得(単位:円)>

		一般条件	ユズの価格が半額になった場合の試算	雇用賃金を12,000円／日で試算	ユズの価格が半額で、かつ雇用賃金13,000円／日で試算
条件	項 目	単 価	単 価	単 価	単 価
	青果価格	595	300	595	300
	果汁価格	180	90	180	90
	雇用費				
	剪定、整枝作業	8,000	8,000	12,000	13,000
	摘果、収穫作業	7,000	7,000	12,000	13,000
	草刈り作業	7,000	7,000	12,000	13,000

試算結果	全作業を委託する場合				
	赤字が無くなる年は	9年後	14年後	10年後	解消できない
	定植後15年後の累計農業所得	3,234,207	369,413	2,463,873	△567,253
	定植後15年後の単年度農業所得	215,614	24,628	164,258	△37,817
	全作業を委託しない場合				
	赤字が無くなる年は	7年後	9年後	7年後	9年後
	定植後15年後の累計農業所得	4,549,873	1,685,080	4,549,873	1,685,080
	定植後15年後の単年度農業所得	303,325	112,339	303,325	112,339

スローガン

「子育てができるユズ産地の育成」

- ・平坦な農地へ**100ha**(農地の28%)の新植

(日本一の優良園地)

- ・**100歳**まで収穫できる低い樹形

(日本一の作業効率)

- ・青果主体で目標販売額は反当**100万円**

(日本一の高収益)

- ・三原村独自の支援システム構築

(日本一の支援体制)

- ・子育てができる農業経営の確立

(日本一のユズ後継者育成)

- ・ユズを核に地域活性化

(ユズ生産、加工での雇用創出と販売額の向上)

農業公社を核とした支援システムと関係機関の役割

幡多農業振興センター

- ・コーディネーター（連携・協議）・農業振興策提案・補助事業導入支援
- ・営農、経営技術指導・担い手農家育成



村内農家

- ・農地使用賃借
- ・ユズ等営農
- ・作業委託
- ・雇用労働の確保



村内住民

- ・雇用労働の提供

新規就農者

- ・農地借地
- ・機械リース
- ・雇用労働の確保



公益財団法人三原村農業公社

（農業振興の核：事業実施主体）

□組織体制

正職員5名＋常勤19名＋研修1名

□主な事業内容

- | | |
|--------|------------|
| ①農地集積 | ②集積農地の有効活用 |
| ③農産物生産 | ④農業機械リース |
| ⑤農作業受託 | ⑥研修生受入 |



三原村役場

- ・村の農業振興の方向性の決定
- ・村の農業振興策の策定
- ・農業振興策の具体的な推進方法決定
- ・農業振興策の実施
- ・担い手農家の育成



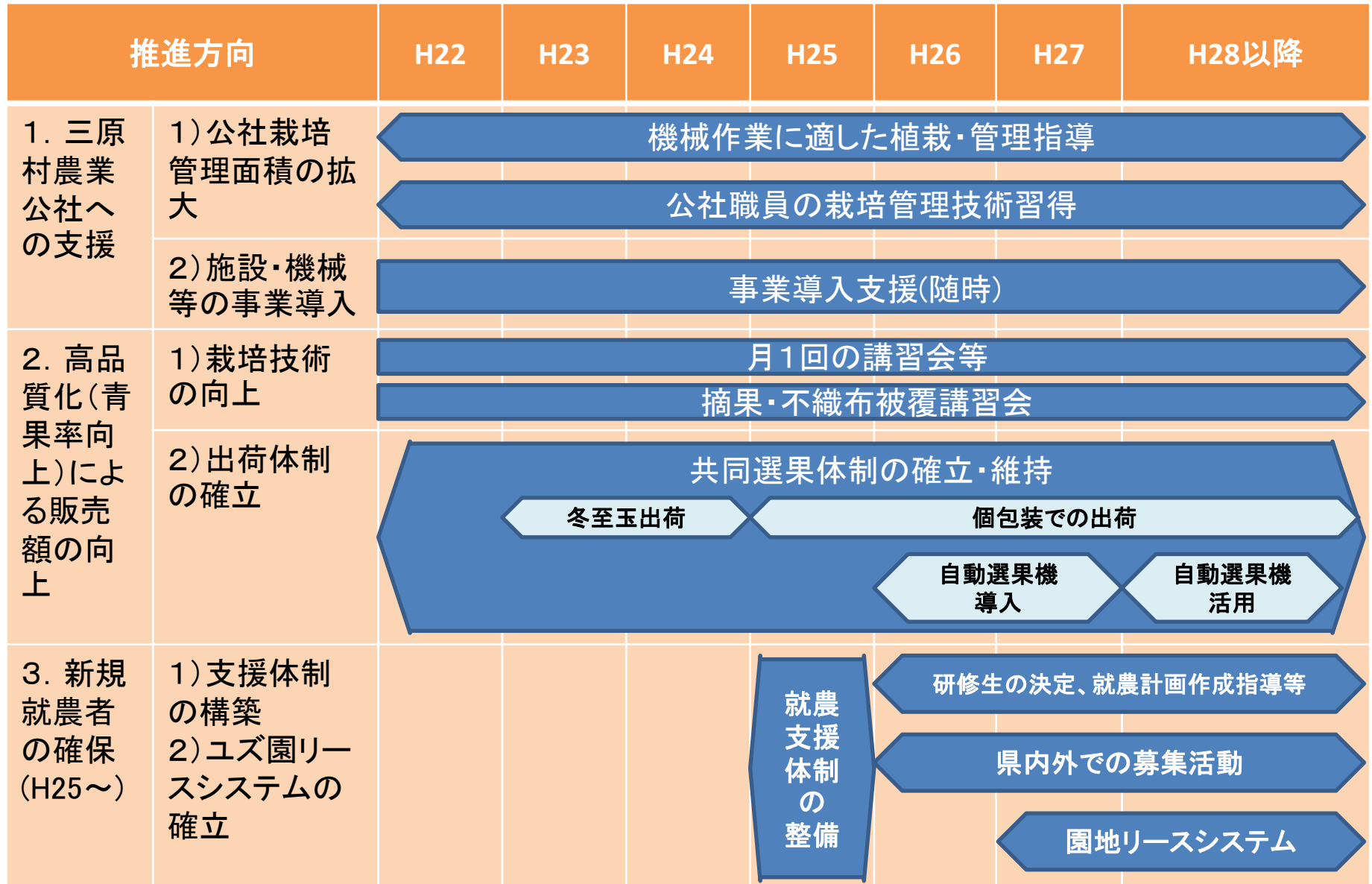
JA高知はた（JA三原支所）

- ・産地化の推進
- ・農産物の集出荷体制整備
- ・農家との信頼強化
- ・担い手農家育成

（目標）

新規就農者が安心して子育てできる環境づくり

“子育てができるユズ産地の育成”に向けたロードマップ



1. 三原村農業公社への支援

1-1) 栽培管理面積の拡大

公社の栽培コンセプト

機械管理作業が可能な省力的な栽培

対応



普及指導活動

平坦地で機械管理作業が可能な栽培方法を推進

- ・畦間5mの疎植
- ・2本主枝仕立て



機械管理作業が可能な園地育成

公社の人材育成

職員が技術向上するとともに、指導役となる職員(技術者)の育成

対応



普及指導活動

樹齢に応じた基本的な管理技術の徹底指導

- ・個別現地指導
- ・講習会



職員向け剪定講習会

1. 三原村農業公社への支援

1-2) 施設・機械等の事業導入

事業導入

H22
~23

施設機械の事業導入

・予冷库・カラーリング設備
・SS・乗用草刈り機等

H26
~27

選果・搾汁施設導入

・自動選果機・搾汁機械等

H22
~27

雇用対策事業導入

・緊急雇用、ふるさと雇用

対応



普及指導活動

・企画検討時

ユズの産地化と農業公社が目指す省力化(機械化)栽培に必要な施設・機械を提案

・計画作成時

事業の規模決定根拠等必要書類の作成指導

・事業導入後

計画の遂行に必要な技術的指導

・企画検討時

必要人員の試算、情報提供

・計画作成時

必要書類の作成指導

・事業導入後

作業員の技術向上指導

対応



2. 高品質化(青果率向上)による販売額の向上

2-1) 栽培技術の向上

< 講習会の内容 >

	基本作業	青果出荷率を高めるための指導内容(毎月末実施)
1月	土作り	樹勢回復、土作り、防寒対策、冬期防除等
2月		剪定(実技講習会)、春肥
3月	春肥	越冬病害防除、葉面散布、SP罹病樹改植推進
4月		開花期防除、黒点病防除、花肥等
5月		梅雨時期の防除、夏肥、排水対策等
6月	夏肥	摘果、不織布被覆、防除等
7月	摘果 不織布被覆	摘果・不織布被覆(現地講習会)、青玉収穫、防除等
8月		摘果、青玉・カラーリング玉収穫、防除、秋肥等
9月	秋肥	カラーリング玉、黄玉収穫、礼肥、防除等
10月		黄玉収穫、礼肥等
11月	礼肥	土作り、防寒対策、冬期防除等
12月		出荷反省会



2. 高品質化(青果率向上)による販売額の向上

2-1) 栽培技術の向上

カラーリング出荷 の導入

淡緑色(一分着色以上)
になったユズを収穫、エ
チレン処理することによ
り着色を促進し、早期出
荷する技術。

目的

- ・前進販売による高単
価の確保
- ・収穫労力の分散

問題点

- ・樹齢が若いとエチレン
処理効果が不安定
- ・摘果不足による肥大
遅れ

対応



普及指導活動

- ・摘果の励行による
肥大促進
- ・黒色不織布被覆
によるエチレン処理
の安定化



摘果・不織布被覆講習会

ユズの収穫と出荷時期

青玉	カラー リング	通常
8～9月	10月上旬 ～	11～ 12月
収穫作業分散 出荷の前進化		



カラーリング玉

2. 高品質化(青果率向上)による販売額の向上

2-2) 出荷体制の確立

個選の問題点

- ・品質のバラツキ
- ・市場評価低下

普及指導活動

- ・共同選果体制の導入・確立による青果品質向上を提案

村の支援

- ・共同選果に係る人件費の補助

共同選果体制の確立

- ・農家間の品質差の解消
- ・市場評価の向上

外観品質を選別できる自動選果機の導入

普及指導活動

自家選果労力の軽減と選果人員削減および加工用玉における皮の付加価値確保のため、カメラ付き自動選果機導入を提案



JA共同選果



カメラ付き自動選果機

2. 高品質化(青果率向上)による販売額の向上

2-2) 出荷体制の確立

冬至玉: 青果玉より外観品質の劣る果実を、予約相対で販売する方式

個袋: 冬至玉と同等かやや外観品質の劣る果実を、生産地で個包装して販売する方式

冬至玉

目的

- ・下級品を青果販売することにより収入向上

問題点

- ・予約販売のため、量の把握が必要
- ・予冷库を保有していないため、減耗率が激しく、出荷量の把握が困難

対応

普及指導活動

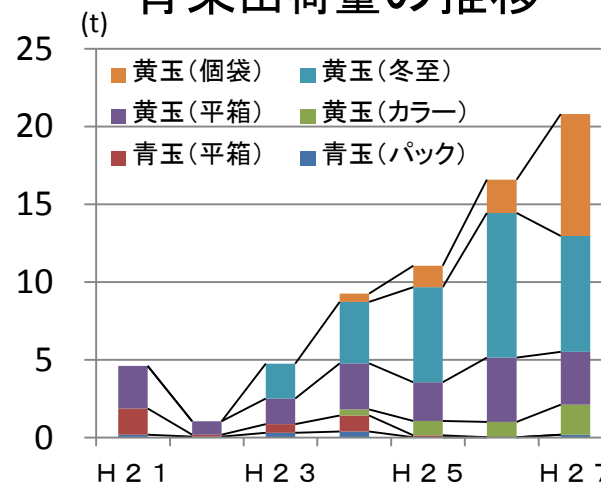
- ・公社が整備した予冷库を活用した冬至玉生産を提案・推進

- ・予約注文対応のため、出荷量予測方法の構築と調査方法の指導(H23~24)



予冷库での冬至玉貯蔵

青果出荷量の推移



3. 新規就農者の確保

ユズでの就農者確保の問題点

- ・就農希望者の受け入れ体制が不十分
- ・村内だけでは就農希望者を確保できない
- ・果樹で就農するためには未収益期間対策が必要

普及活動

- ・就農支援体制の仕組みづくりを提案
- ・村外での就農希望者へのPR
- ・ユズ成園を借り受けて就農する仕組みづくりを提案

関係機関による
支援体制の構築

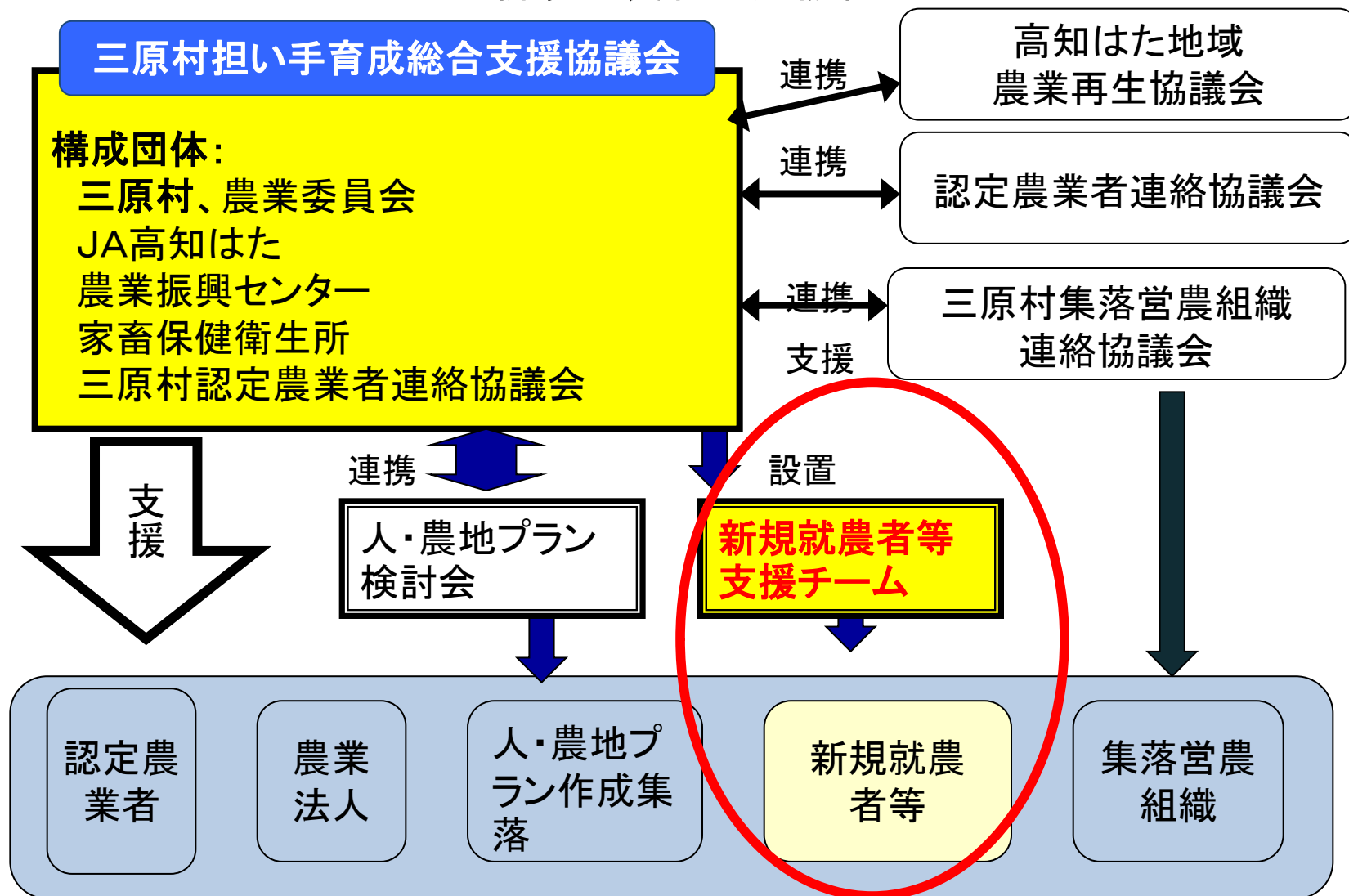
県内外での募集
活動

ユズ園リース
システムの確立

3. 新規就農者の確保

3-1) 支援体制の構築

＜新規就農者の支援体制＞



3. 新規就農者の確保

3-1) 支援体制の構築

＜公社が行う研修に関わる関係機関の役割分担＞

支援項目	三原村	JA高知 はた	振興 センター	備 考
研修計画 作成	○	◎	◎	
農業基礎 講座	△	○	◎	
認定就農 計画	○	○	◎	セットで 行う
営農計画	○	○	◎	
事業導入 計画	◎	○	○	セットで 行う
資金利用 計画	○	◎	○	
農地・住宅 関連	◎	○	△	定期的に 情報提供



県外での募集活動



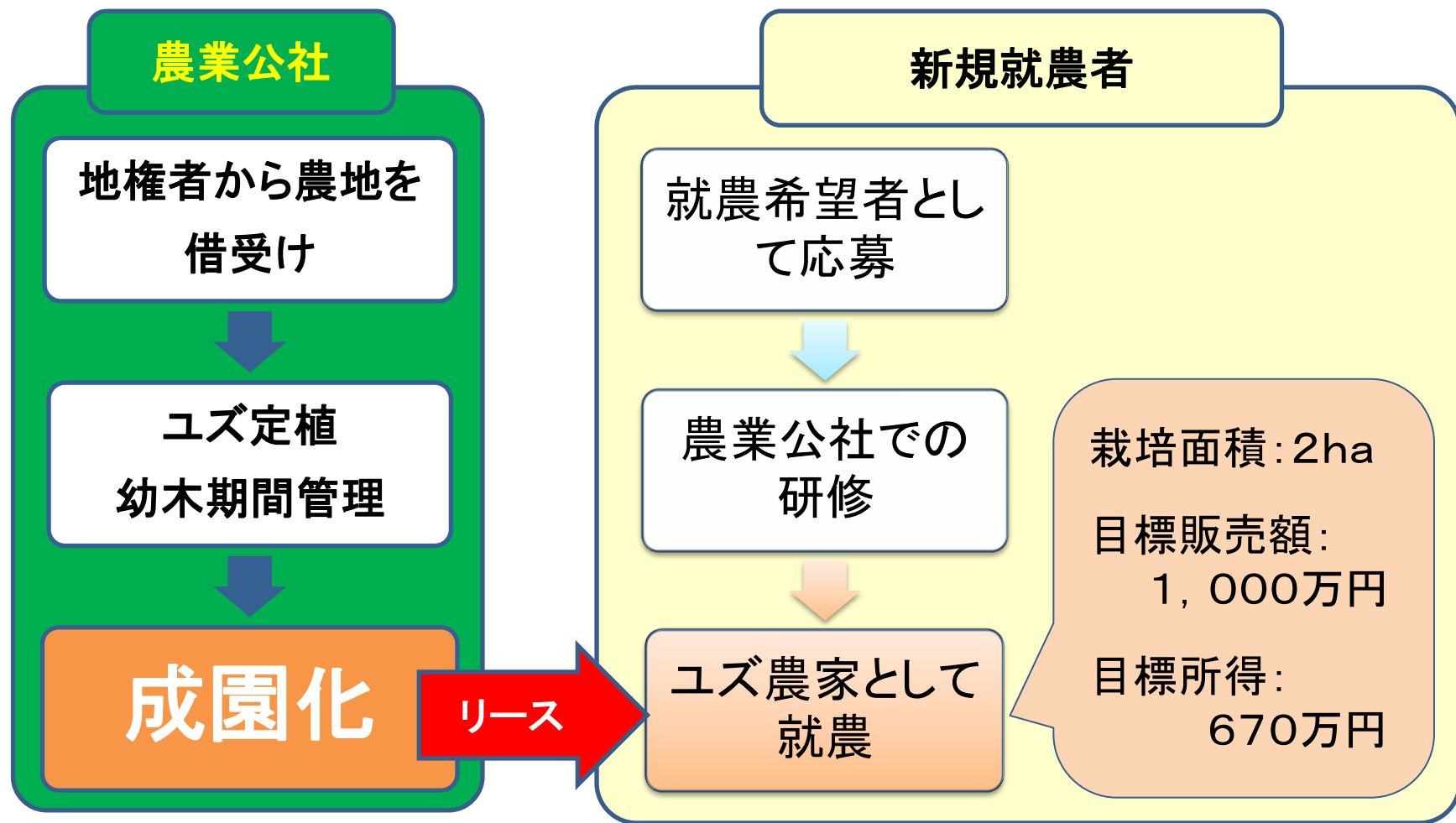
就農希望者と研修
計画作成



現場での直接指導

3. 新規就農者の確保

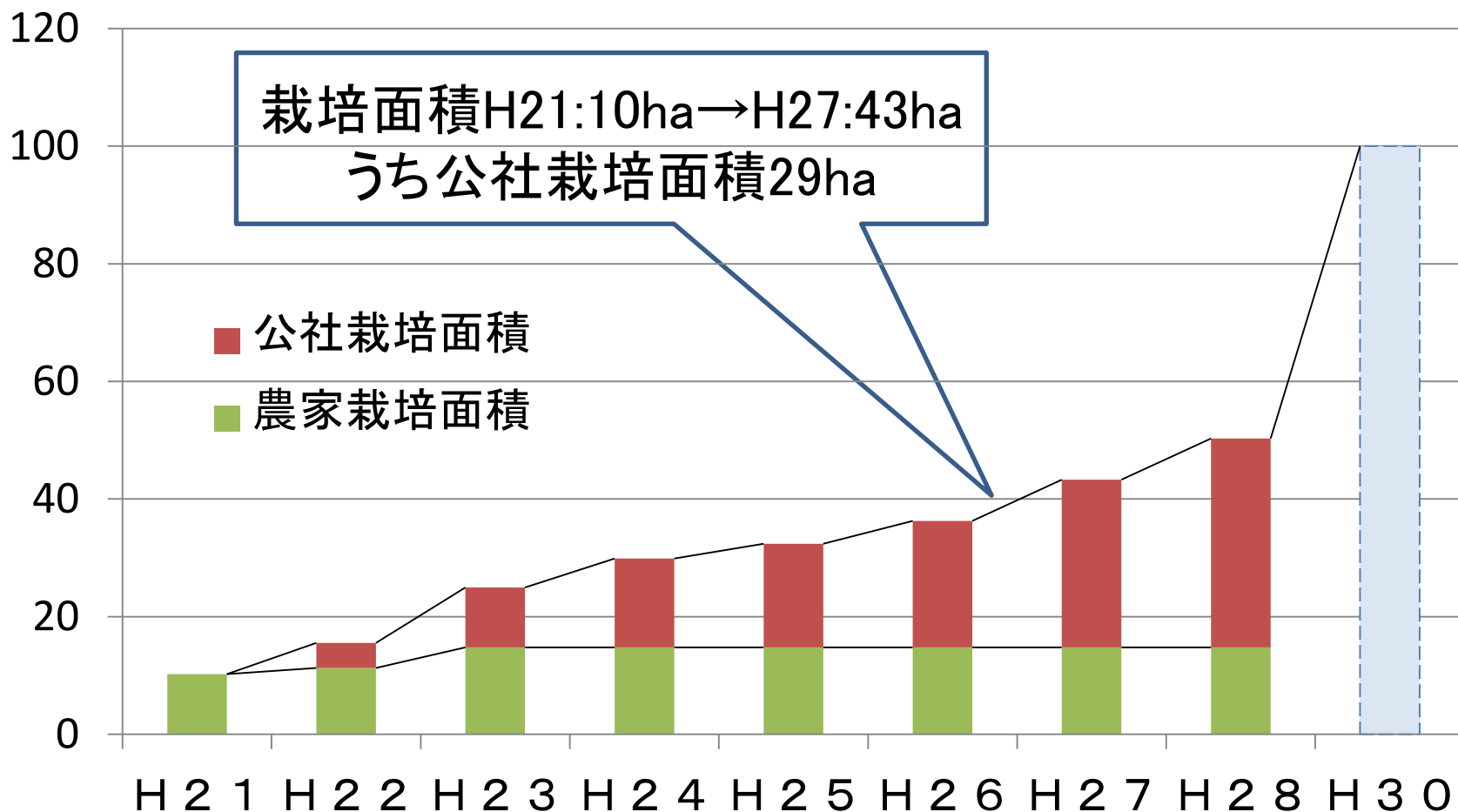
3-2) ユズ園リースシステムの確立



すぐに収益を確保できる園地を新規就農者にリースすることにより、投資を必要とせず新規就農が可能になった

活動の成果

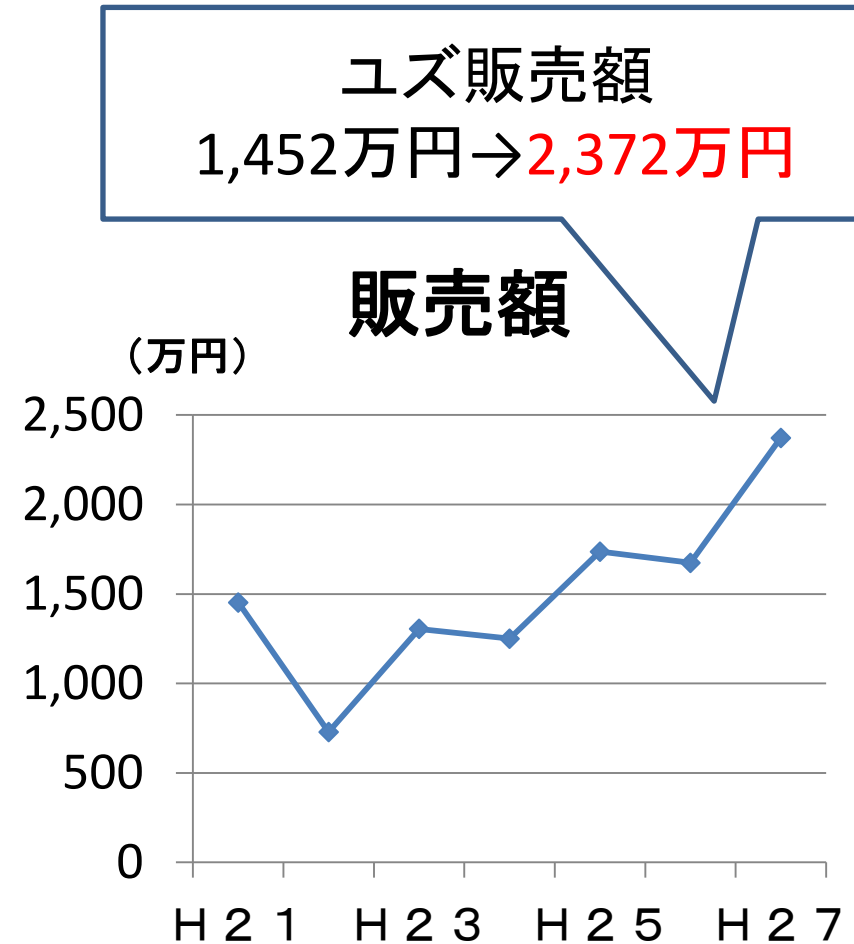
1. ユズの栽培面積拡大



地域住民にとって、公社が農地を安心して預けられる組織と認識されるようになった

2. 高品質化による販売額の向上

- 青果率の向上
(H21:4.5%→H27:**13.6%**)
- 販売単価の向上
(H21:140円/kg
→H27:**155円/kg**)
- 販売額の向上
- 販売額向上農家比率
(H22とH27の比較で
91%が販売額向上)



3. 新規就農者の確保

- ・ 村が主体となって新規就農者を支援するシステムの確立

H26 **Iターン**家族(**30代夫婦**)1家族新規就農

H27 公社**研修生**(**20代**)1家族(H29.2就農予定)

H28 公社**研修生**(**20～30代**)2家族
(H29.2研修開始予定)



今後の普及活動

1. 公社への支援

- 栽培責任者の技術力向上に向けた重点指導
- 集落活動センターと連携した労働力補完システムの構築

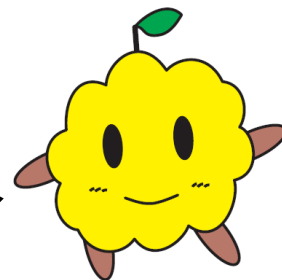
2. 高品質化による所得向上

- 自動選果機を活用した自家選果労力の軽減と品質の均一化
- 青果率の高い農家への重点指導によるリーダーの育成

3. 新規就農者の確保・育成

- 就農希望者の確保から就農までの支援を強化
- 新規就農者の経営計画実現に向けた個別指導

『礎づくり』から
『未来へ続く産地』という柱を立てる段階へ



ご清聴ありがとうございました

